# パステルの龍

芥川龍之介

青空文庫

これは上海滞在中、病間に訳したものである。シムボリズムからイマジズムに移つて行つた、英仏の詩の変遷は、この二人の女詩人の作にも、多少は窺ふ事が出来るかも知れない。名高いゴオティエの娘さんは、カテユウル・マンデスと別れた後、Tin-tun-Ling と云ふ支那人に支那語を習つたさうである。が、李太白や杜少陵の訳詩を見ても、訳詩とはどうも受け取れない。まづ八分までは女史自身の創作と心得て然るべきであらう。ユニス・テイツチエンズはずつと新しい。これは実際支那の土を踏んだ、現存の亜米利加婦人である。日本ではエミイ・ロオウエル女史が有名だが、テイツチエンズ女史も庸才ではない。女史の本は二冊ある。これは一九一七年に出た、二冊目の PROFILES FROM CHINA から訳した。訳はいづれも自由訳である。

## 月光

——Judith Gautier——

満月は水より出で、
海は銀の板となりぬ。
小舟には、人々盞を干し、
月明りの雲、かそけきを見る。
山の上に漂ふ雲。

人々あるひは云ふ、——
皇帝の白衣の后と、
あるひは云ふ、——
天翔る鵠のむれと。

## 陶器の亭

——同上——

人工の湖のなか
緑と青と、陶器の亭一つ。
かよひぢは碧玉の橋なり。
橋の反り、虎の背に似つ。

亭中に、綵衣の人ら。
涼しき酒、盃に干し。
物語り又は詩つくる、
高々と袖かかげつつ、
のけ様に帽頂きつつ。

水のなか、
明かにうつれる橋は
碧玉の三日の月めき、
綵衣の人ら
逆様に酒のめる見ゆ、
陶器の亭のもなかに。

## 夕明り

――Eunice Tietjens――

乾いた秋の木の葉の上に、雨がぱらぱら落ちるやうだ。美しい狐の娘さんたちが、小さな足音をさせて行くのは。

洒落者（しやれもの）

――同上――

彼は緑の絹の服を着ながら、さもえらさうに歩いてゐる。彼の二枚の上着には、毛皮の縁がとつてある。彼の天鵞絨（びろうど）の靴の上には、※子（くつ）の裾を巻きつけた、意気な蹴鞠（くまり）が動いてゐる。ちらちらと愉快さうに。

彼の爪は非常に長い。

朱君は全然流行の鏡とも云ふべき姿である！

その華奢（きやしや）な片手には、――これが最後の御定（おきま）りだが、――竹の鳥籠がぶらついてゐる。その中には小さい茶色の鳥が、何時でも驚いたやうな顔をしてゐる。

朱君は寛濶（かんくわつ）な微笑を浮べる。流行と優しい心、と、この二つを二つながら、満足させた人の微笑である。鳥も外出が必要ではないか？

作詩術

――同上――

二人の宮人は彼の前に、石竹（せきちく）の花の色に似た、絹の屏風を開いてゐる。一人の嬪妃（ひんき）は跪（ひざまづ）きながら、彼の硯を守つてゐる。その時泥酔した李太白（りたいはく）は、天上一片の月に寄せる、激越な詩を屏風に書いた。

（大正十一年一月）

# 青空文庫情報

底本：「筑摩全集類聚　芥川龍之介全集第四巻」筑摩書房
1971（昭和46）年6月5日初版第1刷発行
1979（昭和54）年4月10日初版第11刷発行
入力：土屋隆
校正：松永正敏
2007年6月26日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

# パステルの龍

芥川龍之介

2026年10月1日　第二版

## 奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/